

でん粉原料用かんしょ新品種 「コナホマレ」

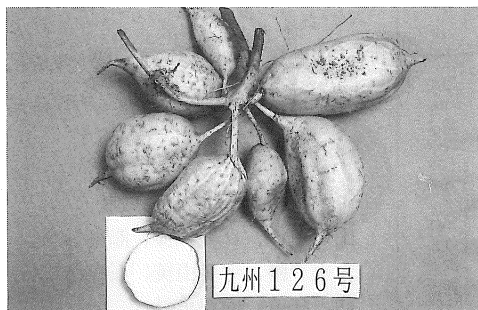
九州農業試験場 畑地利用部 甘しょ育種研究室 熊谷 亨

1. はじめに

鹿児島県のかんしょ栽培面積14,000haの約60%はでん粉原料用であり、鹿児島県の畑作農業は、でん粉原料用かんしょの生産を軸として地域経済の維持、発展に貢献してきた。しかしでん粉の輸入自由化によって、生産が停滞し、地域経済に深刻な影響を及ぼしつつある。この状況を打開するためには、現在のでん粉原料用の代表的品種である「コガネセンガン」「シロユタカ」にかわる、高でん粉、多収のでん粉原料用品種を育成し、低コスト原料いも生産を進める必要がある。

2. 育成の経過

「コナホマレ」は、極高でん粉・多収の「ハイスターチ」を母、組合せ能力の高い「九系82124-1」を父とする交配組合せ（交配番号90110）から選抜した系統である。交配採種は1990年に実施し、1991年以降選抜・育成を行い、実用的特性を検討した結果、高でん粉であることから、1995年以降「九系168」の系統番号を付して生産力検定試験、系統適応性検定試験、特性検定試験を行った。これらの試験成績を総合的に検討して選抜し、1997年以降「九州126号」の系統名で、関係



▲「コナホマレ」の塊根

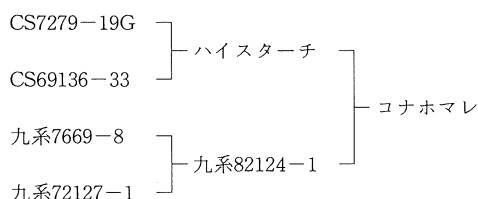


図1 「コナホマレ」の来歴

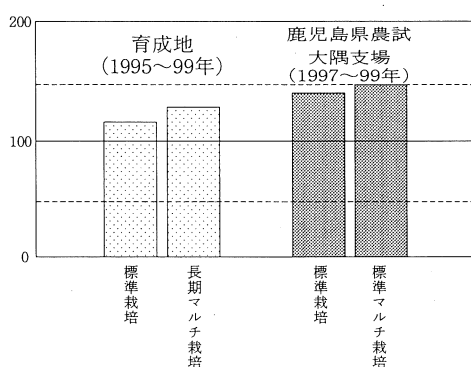


図2 「コナホマレ」のでん粉生産能力

「コガネセンガン」の単位面積当りでん粉重を100とした値

機関において地域適応性を検定してきたもので、2000年8月にかんしょ農林52号として登録、「コナホマレ」と命名された（図1）。

3. 特性の概要

1) 形態・生態特性

本圃における草型の匍匐型、茎の太さはやや細、茎及び節の着色は無、毛茸は少である。茎長はやや長、分枝数はやや少である。頂葉色は淡緑、葉色は緑、葉の大きさは中で、葉形は心臓形である。

しょ梗の長さはやや短、強さは中、いもの形状は短紡錘形で、大きさ、大小整否ともに中で、外観はやや上である。条溝は少、

裂開は無、皮脈は少である。いもの皮色は淡褐で、肉色は淡黄白である。

萌芽は遅速はやや速、萌芽揃いの整否は中、伸長の遅速はやや速、萌芽の多少は中であり、萌芽性は中である。

2) 収量特性

育成地における上いも重は「コガネセンガン」や「シロユタカ」を上回る。切干歩合、でん粉歩留は「コガネセンガン」や「シロユタカ」より高く、「サツマスターチ」と同程度である。でん粉重は「コガネセンガン」や「シロユタカ」を上回る(図2)。

3) 耐病虫性等

サツマイモネコブセンチュウ抵抗性はやや強、ミナミネグサレセンチュウ抵抗性は中である。黒斑病抵抗性はやや弱である。貯蔵性は「コガネセンガン」「サツマスター

チ」と同程度のやや難である。

4) 品質特性および加工適性

でん粉白度は「コガネセンガン」「シロユタカ」「サツマスターチ」と同程度である。

4. 適地および栽培上の注意

南九州のかんしょ作地帯に適する。鹿児島県においてでん粉原料用かんしょの奨励品種として採用された。

栽培に当たっては以下の点に留意する必要がある。

- ① 貯蔵性がやや難であるので、収穫作業やその後の取り扱いをていねいに行う。いもの貯蔵温度に留意する。
- ② ミナミネグサレセンチュウ抵抗性が中、黒斑病抵抗性がやや弱であるので、同病害の多発地帯では防除に努める。
- ③ 掘取が遅れると、軟腐病によるいもの腐れが発生しやすいので、掘取時期に留意する(表1)。

表1 「コナホマレ」の特性概要

	育 成 地 (平7～11)			鹿児島県農試(大隅支場)(平9～11)	
	コナホマレ	コガネセンガン	シロユタカ	コナホマレ	コガネセンガン
萌 芽 性	標準栽培	中	やや良	標準栽培	
葉 形	中	心臓形	波・歯状心臓形		
いもの形状	短紡錘形	下膨紡錘形	短紡錘形	短紡錘形	紡錘～下膨紡錘形
いもの大小	中	中	中	やや大	中
いもの皮色	淡褐	黄白	白(赤)	褐	黄白
いもの肉色	淡黄白	淡黄白	淡黄白	黄白	黄白
いもの外観	やや上	中	中	やや上	やや上
蒸しいもの食味	中	中	中		
貯 蔵 性	やや難	やや難	中		
病虫害抵抗性					
ネコブセンチュウ	やや強	やや弱	やや強		
ネグサレセンチュウ	中	やや弱	中		
黒斑病(長崎総農試による)	やや弱	弱	—		
上 い も 重 (kg/a)	標準栽培 255	234	241	標準栽培 395	317
同上対標準比 (%)	109	100	103	125	100
切 干 歩 合 (%)	39.2	36.7	35.8	38.9	35.2
で ん 粉 歩 留 (%)	27.3	25.4	25.1	28.3	24.7
で ん 粉 重 (kg/a)	70	60	61	113	79
同上対標準比 (%)	117	100	102	142	100
長期マルチ栽培(シロユタカは平7、10、11のみ)					
上 い も 重 (kg/a)	442	373	(368)	496	363
同上対標準比 (%)	119	100	(99)	137	100
切 干 歩 合 (%)	38.9	37.1	(36.8)	40.3	37.3
で ん 粉 歩 留 (%)	29.1	26.7	(25.9)	28.6	26.0
で ん 粉 重 (kg/a)	129	99	(95)	142	95
同上対標準比 (%)	130	100	(96)	150	100

5. おわりに

でん粉収量が非常に多いことから「コナホマレ」と命名された。「コナホマレ」の栽培が拡大し、南九州の甘しょ作に貢献できることを育成者一同期待しているところである。

最後に「コナホマレ」の育成にご援助、ご協力いただいた関係者各位に感謝の意を表する。

「コナホマレ育成者」

山川 理、日高 操、熊谷 亨、
吉永 優、甲斐由美、石黒浩二、
佃 和民、園田忠弘